

会 議 録

会 議 名	令和7年度第1回山形市立図書館協議会
日 時	令和7年7月2日(水) 午後2時～午後4時
開 催 場 所	山形市立図書館2階集会室
主 催	教育委員会図書館
出 席 者	<p>【図書館協議会委員】 伊藤弘昭委員、井上幸弘委員、高梨明恵委員、小鹿泰子委員、 後藤絵美委員、渡邊さおり委員、五十嵐勇大委員、佐々木僚委員、 佐藤紀之委員、井上瑤子委員 (欠席：前田洋光委員、沖津卓也委員)</p> <p>【教育委員会】 金沢教育長、板垣教育部長、阿部社会教育青少年課長</p> <p>【事務局】 齋藤館長、阿部副館長、池田副館長(兼)管理係長、 澤田副館長(兼)企画運営係長、岸野副館長(兼)図書サービス係長</p>
議 題	<p>報告 令和6年度の図書館事業について 山形市児童・生徒 読書全力応援プランについて 山形市立図書館雑誌スポンサー制度について 山形市立図書館における電子書籍サービス導入について 授乳室設置について</p> <p>協議 令和7年度の図書館事業について</p>
傍 聴 者	なし
審 議 経 過	下記のとおり
資 料 名	<p>次第 山形市立図書館協議会委員名簿 【資料1】令和6年度 山形市立図書館事業について(報告) 【資料2】山形市児童・生徒 読書全力応援プランについて(報告) 【資料3】「山形市立図書館雑誌スポンサー制度」について(報告) 【資料4】山形市立図書館における電子書籍サービス導入について(報告) 【資料5】山形市産材「べにうっど」を活用した授乳室の設置について(報告) 【資料6】令和7年度図書館の運営方針(協議)</p> <p>令和7年度第1回山形市立図書館協議会 事前質問・意見と回答 ※当日配布</p>
そ の 他	次回の開催日：令和8年2月12日(木)
作 成 者	図書サービス係 主任 齋藤茜

【 次 第 】

- 1 開会
- 2 任命書交付
- 3 教育長あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 委員長、副委員長選任
- 6 委員長あいさつ
- 7 報告
 - (1) 令和6年度の図書館事業について
 - (2) 山形市児童・生徒 読書全力応援プランについて
 - (3) 山形市雑誌スポンサー制度について
 - (4) 山形市立図書館における電子書籍サービス導入について
 - (5) 授乳室設置について

8 協議

(1) 令和7年度の図書館事業について

9 その他

10 閉会

今年度、委員全員改選（任期：令和7年6月1日～令和9年5月31日）により、山形市立図書館条例施行規則第18条第1項の規定により、協議会に委員長、副委員長を置くこととされており、選任について、同条第2項の規定により委員らによる互選の結果、委員長に伊藤弘昭委員、副委員長に井上幸弘委員が選出された。

報告及び協議については、山形市立図書館条例施行規則第19条の規定により、伊藤弘昭委員長が議長となり、以下のとおり議事を行った。

議長	積極的に取り組んでいただいているようで、今年度新規のいろいろな企画等に関してのご報告が用意されているようですので、できればそちらの方に時間を多めにするという形で進行させていただきますことをご了承お願いいたします。それでは、次第7の(1)「令和6年度の図書館事業について」、事務局からご説明をお願いします。
事務局	それでは、資料1に基づき「令和6年度の図書館事業」についてご報告します。 (資料1に基づき報告) 報告は以上です。 事前にご質問・ご意見を頂戴していますので、こちらについて回答・説明いたします。本日配布しました資料をご覧ください。 (令和7年度第1回山形市立図書館協議会 事前質問・意見と回答に基づき回答、説明。) 事前に頂戴しましたご質問、ご意見に関しては以上となります。
議長	はい。ありがとうございます。この項目について何か確認等ございますか。
議長	委員長からの発言で申し訳ないです。多分開館日数の問題が回答の趣旨かとは思いますが、例えば統計の情報に1人当たりの平均貸出し冊数とありますが、これに対し1日当たりの貸出し冊数であれば、開館日数にかかわらずどういう状況なのかというところが把握でき、1つの目安となると思います。1日ごとの貸出し冊数の推移で比較すると比較的、実際状況がわかりやすいのではないかと思います。いかがでしょうか。
事務局	資料には載ってない数字ですが、令和5年度の本館と分館4館のそれぞれの開館日数を合算しますと、令和5年度は1,404日となります。これで先ほどの貸出者数約16万人や貸出冊数約70万冊というのを計算してみますと、1日当たり貸出者数は118人、貸出冊数は552冊となります。令和6年度は、システム入れ替えのために閉館していた時期がありまして、本館と分館4つのそれぞれの開館日を足すと1,316日となります。同じように1日当たりの貸出冊数、貸出者数について、令和6年度貸出者数は128人で、令和5年度から比べるとプラス10名。貸出冊数につきましては563冊で、令和5年度に比べますとプラス11ということで補足させていただきます。以上です。
議長	今の報告ですと、全体としては減っているように見えるけれども実質的には順調に伸びているという形で、把握していいのかなと思います。 質問として事前には出されていないことも、今ここで気づいて確認しておき

	たいことはございますか。
佐々木委員	令和7年度から電子書籍が導入されると、どんなところが変わっていくのでしょうか。電子書籍もどんどん増えていくだろうし、紙媒体ではないものがどんどん増えてくる。私の仕事の関係としては、実際目で見て体で感じるというようなところがあるので、今後どのようになっていくのかなと思いました。何か計画的な方向性みたいなものがあったら、嬉しいなと思ったところです。
議長	媒体がいろいろな形で多様化している中で、今後市立図書館で何か具体的な、そうした従来の紙と、これから取り入れる電子メディア等々に関する方向性に関して興味があるというご意見かと思いますが、今のご質問に関しては、一番最後に「令和7年度図書館事業」というこれからの構想等の報告のところで、今後の見通しがあればご説明いただけるのかと思ひまして、そちらで検討した方がよろしいですか。
事務局	紙媒体は今まで通りますます充実させていきたいと思ひますし、電子とかVRの方は図書館でどうなっていくかはわからないのですが、まずは今年度電子書籍を入れて、これまでは図書館に来館しなかった方にもアプローチしていくようなことで考えております。違いを見ながら、時代とともに図書館も歩んでいきますが、皆さんのご意見を取り入れながら進んで参りたいと思ひております。
議長	多分紙から転換していくのではなくて、より多くの利用者に対応するようにプラスアルファという形で考えている、加えていくという方向性で、今のところは考えているというところでよろしいでしょうか。
議長	他に、この報告につきまして、何かお気づきの点ございますか。
議長	では個々の新規事業に関してのご説明、ご見解の方をよろしくお願ひします。それでは、次第7、報告の(2)の山形市児童・生徒読書全力応援プランについて、ご説明の方よろしくお願ひいたします。
事務局	それでは、資料2に基づき「山形市児童・生徒 読書全力応援プランについて」ご報告します。 (資料2に基づき報告) 報告は以上です。 事前にご質問・ご意見を頂戴していますので、こちらについて回答・説明いたします。本日配布しました資料をご覧ください。 (令和7年度第1回山形市立図書館協議会 事前質問・意見と回答に基づき回答、説明。)
議長	事前に頂戴しましたご質問、ご意見に関しては以上となります。 ありがとうございます。ここから先は報告というよりも、これから先の活動の予定も含めてのお話というところになりますよね。では、それも含めまして、この読書全力応援プラン、これは昨年度から本格的に始めた取り組みだと記憶しておりますが、実際に昨年度から変更点等はないのでしょうかという事前の質問がありましたが、その確認も含めまして、この取組に関して何かご意見、或いはご確認等ございますか。
井上(幸)委員	資料の中に、この団体貸出のことでとても大事なことを述べています。それが今回の資料から欠落しています。というのは、子どもたちが今、タブレット端末を持っており、それから図書館の蔵書を検索することができます。そして団体貸出を受けるときに、図書館でテーマに関する本を選んで持っていくのに合わせて、子ども自身が検索した本を予約本として確保しておいて、

	<p>一緒に持ってくという計画だったようですが、そういうことができるようにすべきだと思うのです。なので、図書館から持っていくだけでなく、児童・生徒が自分たちで検索した本が手元に届くということが出来ますということについて、やはりそれをやると大変だから資料から抜けてしまったのか、技術的に難しいからできなくなったのか、その辺をもう少し詳しく教えて欲しいです。</p>
議長	<p>はい。この団体貸出の中に、前回あった個々の子どもたちのリクエストも反映させた形で実施する予定なのかというところの確認ですよね。よろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>今回の資料に入っておらず大変申し訳ございませんでした。前回2月の協議会の中でタブレットを使った予約ができないかというところで、ご意見頂戴しておりましたので、総合学習センターのICT教育推進係と調整しております。本年度中の実施に向けて取り組んでいます。まだテストができてない状況でございますので、テストを進めながら、タブレットを使って個人で選んでもらったものを団体貸出につなげていきたいと思っております。決して欠落したというわけではございません。今調整中ということで、よろしくお願いたします。</p>
井上(幸)委員	<p>小学生の場合は、それほど図書館の蔵書を検索してというのではないのだろうと思いますが、中学生については、山形市が持っている40万冊の蔵書も自分たちが使えるものなのだという、そういう大きな視点の中に学校図書館を位置付けて考えると、選択の範囲が広がると思うので、ぜひ実施に向けて進めて欲しいなと思いました。以上です。</p>
事務局	<p>電子書籍の導入についても小中学校との連携を考えており、それも含めてICT教育推進係と話をしています。また、小中学校のタブレットが11~12月ぐらいに新しく更新されますので、その動きと合わせて読書環境を整えていきたいと考えております。</p>
議長	<p>導入期中途半端に始めて混乱すると印象が悪くなりますし、しっかり準備をして実現をしていく予定であるといえますか、確実に進めていきたいという方向で捉えてよろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>他にこの取組に関しまして、何かご意見、或いは要望、他に取り入れてほしいこと、あったほうが望ましいと思うことも含めて、何かございますか。</p>
高梨委員	<p>校長会の方で説明いただいて本当にありがたかったと思っております。その時もお話ありましたが、今、探究学習が小中学校で盛んに行われていると思うのですが、その中で子どもたちが調べたいなど思っている本がなかなか学校図書館にないという場合がよくあります。そういうときに、こういうものがありますかと要望したら、市立図書館の方でいろいろ探してくれてまとめてくださいますよと校長会の方でお話してくださいましたよね。それがすごくありがたかったなと思っております。そんなふうにして、私たちの要望、子どもたちの要望を聞いていただき、そして学校にきちっとそろえていただいて、100冊、そんなにたくさん冊数を持って来ていただけるのは大変ありがたいことだなと思っております。自分が担任しているときは、なかなか勤務時間内に図書館に来られなくて、土曜日や日曜日に探しに来て苦労した経験がすごくありますので、このようなすてきな活動をしていただけると大変ありがたいと思っております。以上です。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございます。現場の方からの期待もかなり高いようですので、そのためにはこのチラシも含めてしっかり取り組んでいらっしゃるようですね、やはり認知されて、この取組がより広い範囲で行われるよう、お願いしたいと思います。このようなまとめでよろしいでしょうか。</p> <p>他にございますか。</p>
渡邊委員	<p>りぶ活について述べさせていただきたいと思っております。保護者の立場から、</p>

	<p>今部活動の地域移行・地域展開ということで、部活動をしなくてもいいという、生徒が選択できる時代になってきていますが、その中でやはり家に帰ってから帰宅後の居場所など、土日の過ごし方というところでいふ活はとていい、文化的なことが好きなお子さんにとっては素晴らしい活動だと思っております。去年よりも回数も増やしていただいて、期間も昨年よりも1か月延びたのでしょうか、とても素晴らしいことだと思っております。今年はこの、いくのでしょうか、来年度に向けてもう少し長期の期間で、今だと5か月ぐらいになるようですが、1年の間のもう少し長い期間を見て、長期に向けた子どもたちの活動にさせていただけると嬉しいなと思っております。</p> <p>あと、この図書館の全体の資料を読ませていただいたときに、様々なボランティア活動の方が図書館で活動してくださっているとありますが、ボランティアの方々がだんだん高齢化してきて、活動がだんだん縮小してきているようなことを読ませていただきました。子どもたちが小さいうちからこういう図書館活動に興味を持って接することで、いろいろな年代になってからも、常に図書館に興味を持つところを育てていくことが大事だと思っております、様々な人生の中で図書館に関わりたいと思えるようになってほしい。私の勝手な思いなのですが、心も育てるじゃないのですが、そういう気持ちの意識もあってもいいのかなと思っております。だから来年度からも少しずつ増やしていただけたら嬉しいと思っております。私の気持ちですが、よろしく願いたいと思っております。</p>
議長	<p>今年度はこういう形ですが、できればこちらも拡充して、より長期的な視点に立って拡充していけるよう取り組んで欲しいという要望ということでよろしいでしょうか。いろいろ大変かもしれませんが、期待されているからこそその要望ということで、前向きに検討していただければと思います。</p> <p>この取組に関しましては、以上でよろしいでしょうか。</p> <p>はい。では次に次第7、報告(3)の「山形市立図書館雑誌スポンサー制度について」事務局の方から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、資料3に基づき「山形市立図書館雑誌スポンサー制度について」ご報告します。</p> <p>(資料3に基づき報告)</p> <p>報告は以上です。</p> <p>事前にご質問・ご意見を頂戴しておりますので、こちらについて回答・説明いたします。本日配布しました資料をご覧ください。</p> <p>(令和7年度第1回山形市立図書館協議会 事前質問・意見と回答に基づき回答、説明。)</p> <p>事前に頂戴しましたご質問、ご意見に関しては以上となります。</p>
議長	<p>はい。ありがとうございます。これは新規事業という項目になるのですよね。ただ今の説明、或いは事前の資料等の説明をご確認いただきまして、改めてご意見、ご要望、或いは新たに確認したいような事項がありましたら、よろしく願います。</p>
五十嵐委員	<p>地元書店からの購入を増やすことで支援につなげるという記載があっても非常にうれしい限りですが、スポンサー募集ということで営業体制といいますか、地元企業に対してどのように営業されるのでしょうか。透明カバーに広告を貼りつけるということですが、実際何人に見られているかのような、費用対効果ではないですが、どのくらいお客様、読者の方に目につくのか等、そういった資料があれば、逆に書店が営業の一端になって、その資料を店頭</p>

	で配ったりホームページに掲載したりという動きもできるのかなと思います が、その辺りを詳しくお聞かせいただければと思います。
議長	実施に関してのより具体的な方法でのスポンサー集めについて、スポンサーはやはりお金出すわけですから、どれだけの効果が見込めるのかといったところを裏付けるとまでは言えないのですが。
五十嵐委員	そうですね。効果というところが見えにくいと思いますが、どのぐらい目に付くのか、手に取っていただけるのか等、データがあるとお金を出す方も出しやすいのかなと思います。
議長	そうですね。よりスムーズに進むための確認事項ということですが、今のところスポンサー集めというのは、どういう算段をつけているのか、そこが肝になりますね。
事務局	実際のスポンサー集めでどこを回ろうかという具体的なところにつきましては、今はまだ考えていない状況ですが、ご指摘、アドバイスいただいたとおり、新しいシステムが入っていますので、よく読まれている雑誌は何かといった資料をお出ししながら、PRを行えると思います。
議長	やはり図書館の世界と、企業の感性とでは違うものがあると思いますので、いろいろな委員に引き受けていただいたということで、市立図書館にいろいろ現実的なアドバイス、どうすれば説得力があるのか、広がるのかというようなアドバイスが随時あればご協力いただけると、よりこの活動の展開が効果的に行われるのではないかと思います。試行錯誤でよろしいですか。
佐藤委員	そのようなことをされている図書館というのはあるものなののでしょうか。山形県内でもあるのでしょうか。
議長	スポンサー制度というのは結構よく聞く取組ですが、山形県内となると県立図書館でしょうか。
佐藤委員	県外に行ったときには、県外の図書館に行って、少し見てきますが、やはり区立図書館なんかですと、透明カバーの裏にそういう企業の名前が入っているのがあります。ただ、市の方でこれからするのであれば、もし県立図書館の方でやっているのであれば、やり方についてもアドバイスをもらえますか。全く独自のやり方でやるというのは、大変なのかなと思います。
議長	ノウハウは、知っていた方が当然スムーズになると思います。もしあれば、いかがでしょうか。
後藤委員	はい。県立図書館でも同じ制度を導入しております。課題は同じで、その企業へのPRというところが正直難しいと思っておりますので、先ほど五十嵐委員からあったようなこともやっていければとは思っています。どちらかというところとしては、企業支援の方に近く、なるべく業種を絞って、例えばこういう業種であれば、こういった雑誌はいかがでしょうかというようなPRを進めています。こちらの方からPRする際には、その業種に沿った雑誌をあえて抽出して、それをそういった団体にPRするような形で進めています。
井上(幸)委員	とても面白い取組ですので、ぜひ積極的にやって欲しいと思います。ただ、とても気になるのが、2(2)の「広告の媒体」に、「市立図書館(本館及び分館)にて購読、または今後購読する雑誌」という項目があります。今図書館には186種類の雑誌が入っているようですが、それに絞った形で、この雑誌のスポンサーになって欲しいという呼びかけをぜひ、した方がいいのではないかと思います。「今後購読する雑誌」と記載すると、少し言葉が悪いのですが、「お金は出すので、文句言わずにこの雑誌を入れてください」となってしまうようで、受入れの可否という点で、断りきれなくなってしまうのではないかと懸念しています。実際に市立図書館の方でお聞きした中に、極端に右寄りの雑誌の購入を依頼された例があります。お金がたくさんあれば図書館としては入れていくべき雑誌だと思いますが、お金が限られている中では、「今後購読する雑誌も含めて対象になります」というよ

	<p>うに範囲を広げないほうがいいと思います。リクエストという形では、「残念ながら予算が限られているのでお断りします」ということができますが、「お金を出すからこの雑誌入れてほしい」と言われてしまうと、それを拒否するのに、審査会があったとしても難しくなるのではないかと思います。まずは種類を限定してスタートしていくべきではないか。あまり範囲を広げないでやったほうがいいのではないかと思います。以上です。</p>
議長	<p>既存の雑誌の中で行っていく分には問題はないと思いますが、書店の発展ということを考えれば、新規でどんどん増やしてもらった方がよろしいのかと思います。読める雑誌を増やしていくという方向性も私個人の中ではありかなと思います。既存の雑誌のみでスポンサーをつけるのは、単に節約のために図書館がお金を出し渋っているとまでは言いませんが、限られた予算の中で、より多くのを市民に提供するという形でスポンサーを募集すると、これまで既存の雑誌を納めていた書店さんも新しい雑誌を継続して購入されますし、利用者も読むことができる雑誌の種類が増えるというところで、理想かなとは思いますが。まずは現実路線で今あるものの中で、なるべく予算をよりいろいろな方向に回せるようにという形で進めていくとよろしいのではないのでしょうか。</p>
井上（幸）委員	<p>例えば、ある特定の雑誌のスポンサーを獲得し、年間で2万円ぐらい余裕が生じた場合、そのお金をどこか別のところに回すのではなく、違う分野の雑誌を図書館が選定して、そして全体として図書館が雑誌を増やしていくようにお金を使って欲しいという考え方です。</p>
議長	<p>スポンサーから特定の雑誌の要求があった場合、どのような姿勢で臨んでいくのかというところをはっきりさせておいた方がよろしいのではないかと、というご意見としてまとめてよろしいのでしょうか。これは実際考えられるケースだと思いますので、この制度を実施する場合は、対応が人によって違うのはまづいかと思います。図書館として、やはり利用者からすると、既存の雑誌もいいですが、より多くの雑誌と触れる機会があるとなおよろしいかと思えます。ただ、書店の立場としては、あまり多く図書館で扱われると、買ってくれる人が減ってしまう懸念があるものではないのでしょうか。</p>
五十嵐委員	<p>たくさんの方が新しい雑誌に触れることに対しては、意見する立場ではないと思っています。その媒体資料ではないですが、スポンサーになるときの取り決めを書いておく等、最初の設計で何とでもなるのではないかと思います。</p>
議長	<p>受け入れる雑誌の種類に関しては図書館の受け入れ方針に沿った形のものにさせていただくという方針を定める方がよいということでしょうか。新しい取組には何事もいろいろなことが想定されるかと思えますので、委員全体としては、この取組に関して否定するものではなく、積極的に進めていただきたいという方向で考えておりますが、ただ行う際には、もう少し詰めた形で行っていただきたい。交渉する方として、企業を相手にするっていうのは、説得のための準備がかなり大切だと思います。私も学校関係で企業と話をするときはかなり緊張しまして、かなりシビアな対応を求められることがありますので、様々な今いただいたご意見等を参考にして、より広い範囲で協力いただけるように進められることを、お祈り申し上げます。この取組に関しては積極的に取り組んでいただきたい。ただ、現実的な問題には慎重に対応していただきたいというところで、委員の総意として、この議題に関してまとめさせていただきます。</p> <p>では続きまして次の報告の（４）、「山形市立図書館における電子書籍サービス導入について」の項目につきまして、ご説明お願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、資料４に基づき「山形市立図書館における電子書籍サービス導入について」ご報告します。</p>

	<p>(資料4に基づき報告)</p> <p>報告は以上です。 事前にご質問・ご意見を頂戴していますので、こちらについて回答・説明いたします。本日配布しました資料をご覧ください。</p> <p>(令和7年度第1回山形市立図書館協議会 事前質問・意見と回答に基づき回答、説明。)</p> <p>事前に頂戴しましたご質問、ご意見に関しては以上となります。</p>
議長	<p>とりあえず今年度に関しては山形市単独という形、いずれは広げていきたい方向性というご回答でよろしいでしょうか。この議題に関しまして、ご意見、ご要望等ございましたらよろしく願いいたします。</p>
議長	<p>県立図書館との事前協議を行い、その結果まずは児童向けのコンテンツを中心に展開していくと理解していますが、それでよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>県立図書館では専門書が閲覧できますので、山形市は児童書や一般書を入れていきたいと考えています。</p>
議長	<p>まずはそういった背景も含め、児童生徒向けのコンテンツから導入していくという考え方、方向性に関して、何かご意見等ございますか。ここでは否定するものではなく、導入自体はこれから先必ず必要になると思いますが、何か別の視点でのご意見等ございましたらお願いします。</p>
佐藤委員	<p>「3 具体的なサービス内容」の(3)にあります。調べ学習用の図書が優先されてしかるべきかと思えます。電子書籍であれば、1冊を奪い合うのではなく一気に多人数見られるので、調べ学習で使うような本を選ぶのは1つの手だと思えます。</p>
事務局	<p>ただいまご指摘いただいたとおり、調べ学習ということで、先日ICT教育推進係から電子書籍のデモを見ていただいたところ、全員で百科事典の写真を見ながら、授業を進められるのは画期的だというお褒めの言葉をいただいておりますので、そういった使い方ができればより充実した授業ができるだろうという手応えは感じてきたところです。</p>
議長	<p>学校関係の電子化を進めている部署と連携はしっかり取りながら進めているという状況であるということかと思えます。</p>
井上(幸)委員	<p>資料の24ページ、予算措置の(1)に歳出約930万とありまして、コンテンツ使用料導入から28か年分となっておりますが、これは28か月分の間違いですね。</p>
事務局	<p>その通りです。記載誤りでした。「28か月分」に修正をお願いします。</p>
議長	<p>これに関しては実際に導入しつつ、いろいろご意見等要望等がより具体的に出てくると思えます。まずは関係各所と連携を取り合って進めていただければと思います。</p> <p>では、報告の(5)、「授乳室設置について」ご説明をお願いいたします。</p> <p>それでは、資料5に基づき「授乳室設置について」ご報告します。</p>
	<p>(資料5に基づき報告)</p> <p>報告は以上です。 事前にご質問・ご意見を頂戴していますので、こちらについて回答・説明いたします。本日配布しました資料をご覧ください。</p> <p>(令和7年度第1回山形市立図書館協議会 事前質問・意見と回答</p>

	に基づき回答、説明。)
議長	<p>事前に頂戴しましたご質問、ご意見に関しては以上となります。</p> <p>これに関しては、既に開始しているという事実もございますので、大丈夫でしょうか。</p> <p>では、協議事項に移ります。「令和7年度図書館事業について」説明よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、資料6に基づき「令和7年度図書館事業について」ご説明します。</p> <p>(資料6に基づき報告)</p> <p>以上です。</p>
議長	<p>今まで報告事項でそれぞれ新規事業として説明したものを盛り込んだ形での事業計画というところで、これに関しては特に事前質問は寄せられてなかったということですね。本来これが協議事項でメインになるのですが、既に前の報告の方で丁寧に説明いただいたということで、それ以外の点について資料をご確認いただいて、何かご意見等ございましたら、お伺いします。</p>
佐藤委員	<p>実は去年、商店街の代表の方を対象に話をする機会がありました。私は「読書短歌」といって、本を読んで、その感想とエッセイを図書館で展示しているのですが、そのことを話しました。興味を持って聞いてくださったのですが、それぞれの会社の代表の方ですので、本を読んでらっしゃいました。逆に私が読んだかなどと聞かれたりして、あれはぜひ読んで欲しいなどと言われることもあります。それで、先ほどのスポンサー制度でもありましたが、企業で自分たちの社員に対して読書を進めているようなところはないのかなと思います。「我が社では、実は市立図書館の方に、雑誌のスポンサーという形で協力しています。会社として、社員にも本を読んで欲しい。」と、そういう姿勢を表すのもいいのではないかなと思います。そのように賛同してくるところがあれば、とてもいいことじゃないかなという気がします。最近の若者の読書離れから、何とか本を読んで学んで欲しいという思いを持っている経営者もいると思います。そのようなところをくすぐるといっても大事なことかなと感じました。</p>
議長	<p>面白いのが、「読書推進」というとどうしても子ども対象に捉えがちですが、何も対象は子どもだけではなく、いろいろな方向からのアプローチはあり得るのではないかなという形で、すぐには無理かもしれませんが、1つの方向性としてのご意見としてお伺いするというところでよろしいでしょうか。</p>
渡邊委員	<p>取組6の「広報・広聴及び情報発信の充実」というところですが、山形市のホームページやフェイスブックなどを利用してインターネットでの発信をいただいているということで大変ありがたく、利用しやすくなっているのかなと思います。図書館の利用はやはり中高生がなかなか少ないというのが昨年度も出されたと思いますが、若い人たちはどちらかという、フェイスブックをあまり見ておらず、インスタグラムをよく使っていると聞きます。山形市の施設でも結構インスタグラムをやっていると思いますので、今後の取組として、インスタグラムの利用というのも少し考えていただけたらいいのではないかなと思います。実際私もフェイスブックは見ないし、インスタグラムをよく見ておりますが、様々な情報をそこから得ているというのが現実だと思います。もし今後していただけるようであれば、大人というかお役所の方が作るとどうしても堅苦しくなるんだよねと他の施設の方も仰っていたのですが、図書館で高校生や大学生のインターンを受け入れたりと</p>

	<p>っていう活動もしてらっしゃると思うので、そういう方々の意見も取り入れていくのもいいのかなと思ったところです。</p>
議長	<p>広報戦略のあり方として、実態に合わせた形とか、その内容等に関しても現状に合わせた形をちょっと把握して、より効果的な展開ができればというご意見でよろしいでしょうか。</p>
議長	<p>市立図書館は、学校や子どもに関しての活動は、かなり熱を入れて重視して行っているのは重々承知していますが、高齢者とか、他のターゲット層に向けての取組をこの協議会の中で取り扱う機会があればと個人的に考えておりますので、かなり先になりますが、次の協議会等ではそこも踏まえた形で進行させていただければと思います。</p> <p>では、これにて議事を終了いたします。ご協力ありがとうございました。</p>